

中野区産業振興方針(骨子)について

区は昨年度、「中野区基本計画」(令和3年9月策定)に基づき、新たな産業振興方針の策定に向けて、「中野区産業振興ビジョン」(平成24年10月策定)を検証するとともに、区の産業や商業の現況分析、関係団体等との意見交換を行ってきた。

今年度に入り、新型コロナウイルス感染症の5類への移行を契機として、激減していたインバウンド需要の急速な回復、各地でのイベントの開催など、経済活動は今後さらに活発化していく動きを見せている。一方、緊迫が続くウクライナ情勢や円安、エネルギー・原材料価格や物流費の高騰などによる値上げが続き、区の経済や特に中小企業・小規模事業所の経営に影を落としている。

こういった状況も踏まえながら、中野区における産業振興の目的、背景、現状と課題、基本方針、施策案などを整理し、中野区産業振興方針の骨子をまとめたので、報告する。

1 中野区産業振興方針(骨子)

別紙のとおり

2 今後のスケジュール

令和5年	7月～9月	関係団体・事業者等ヒアリング、庁内協議
	10月	中野区産業振興方針(素案)を作成、議会報告
	11月	関係団体・事業者等ヒアリング、庁内協議
	12月	中野区産業振興方針(案)を作成、議会報告
令和6年	2月	中野区産業振興方針策定
	3月	同方針を議会報告

中野区産業振興方針(骨子)

▼中野区の産業振興の目的(目標)

中野の地域経済が健全に発展し、区民生活が向上している。

- ▶現在の中野区産業を振興する。【振興】
- ▶中野区で新たに興し、未来に継続・発展できる産業を育成する。【新興】

▼中野区産業振興方針(骨子)の構成

1 背景

- ① 上位計画・関連計画等
- ② 社会経済状況

2 中野区産業の現状と課題

- ① 中野区の概況
- ② 「中野区産業振興ビジョン」(2012年10月策定)の再検証
- ③ 国・都・中野区的主要な取組
- ④ 中小企業の事業環境
- ⑤ 商業・商店街
- ⑥ まちづくりの現状と課題
- ⑦ 都市観光の現状と課題

3 産業振興方針の目的(目標)、基本方針

4 施策案、取組例

1 背景①(上位計画・関連計画等)

▼中野区基本構想

- ▶基本目標1 「人と人がつながり、新たな活力が生まれるまち」
- ▶基本目標4 「安全・安心で住み続けたい持続可能なまち」

▼中野区基本計画

- ▶重点プロジェクト3 「活力ある持続可能なまちの実現」
- ▶政策3 遊び心あふれる文化芸術をまち全体に展開する
- ▶政策4 地域経済活動を活性化する
- ▶政策12 生涯現役で生き生きと活躍できる環境をつくる
- ▶政策5 東京の新たな活力とにぎわいを世界に発信する
- ▶政策17 時代の変化に対応したまちづくりを進める

▼方針

- ▶中野区都市観光施策方針(2022年11月策定)
- ▶中野区文化芸術振興基本方針(2023年3月策定)

▼中野区都市計画マスタープラン(2022年6月改定)

▼個別計画等

- ▶中野駅周辺まちづくり各種ビジョン・計画等
- ▶西武新宿線沿線まちづくり各種ビジョン・計画等

▼その他

- ▶中野駅周辺エリアマネジメントビジョン(2023年3月策定)

1 背景②(社会経済状況)

▼世界経済・トレンド

- ▶世界全体では人口は、増加傾向にある一方で、先進国を中心に高齢化率が上昇している。
- ▶ロシアによるウクライナ侵攻が続き(停滞し)、経済成長の下押しリスクとなっている。
- ▶景気指数は、新型コロナウイルス感染症拡大・長期化の影響で悪化したが、経済活動の再開に伴い、中水準まで回復している。
- ▶一方、消費者物価指数は増加(インフレ)しており、企業のコスト増となっているが、米国などは価格転嫁が進んでいる。

▼国内経済・トレンド

- ▶2023年6月16日、「経済財政運営と改革の基本方針2023」が閣議決定
- ▶新型コロナウイルス感染症拡大・長期化により、大きな影響を受けたのは次の7業種である。
 - ①運輸・航空機、バス、鉄道
 - ②小売・百貨店、デパート、大型スーパー
 - ③宿泊・ホテル、旅館、民泊
 - ④飲食・レストラン、居酒屋、食堂
 - ⑤娯楽・パチンコ、映画、劇場、レジャーセンター
 - ⑥医療・福祉、病院、デイサービス、介護サービス
 - ⑦生活関連・商業施設、浴場、ガソリンスタンド
- ▶2022年3月、「中小企業の事業再生等に関するガイドライン」(金融庁)が公表
- ▶新型コロナウイルス感染症拡大・長期化の影響で、GDPは一時大幅減となったが、1~3月のGDPは3期ぶりのプラス成長である。
- ▶円安が続き、業種によっては、企業経営を圧迫している(収益が上がっている企業とそうでない企業の格差が拡大)。
- ▶エネルギー・原材料価格や物流費の高騰などによる値上げラッシュが続いている。
- ▶人手不足が顕著になっている(大企業が賃金を引き上げたことにより、中小企業から人が流れている傾向が窺える)。
- ▶上場会社などは賃金上昇が続いており、中小企業もその流れにあるが、価格転嫁が十分にできていない。
- ▶新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、企業活動や働き方が変化し、それらが一定維持されている。
- ▶新型コロナウイルス感染症の感染法上の5類位置付けに伴い、急激にインバウンド需要が回復している。
- ▶「Society5.0」の実現に向けたデジタル化が進展(AIほか)、デジタル技術関連サービスの普及・進展が加速している。
- ▶日本国内のB to C(消費者向け電子商取引)は、物販系分野とデジタル系分野においては、2013年以降増加し続けている。
- ▶インターネット通販は増加の一途である。
- ▶SDGsの機運が高まっている。
- ▶2050年温室効果ガスを実質ゼロにするカーボンニュートラルが普及しつつある。

2 中野区産業の現状と課題①(中野区の概況)

▼中野区(面積15.59km²)の概況

▶中野区の人口(2023年1月1日)

▶夜間人口 333,593人 <微増傾向>

うち外国人 18,272人

▶世帯数 209,150 ▶世帯人員 1世帯1.59人

▶高齢化率 19.9% ▶合計特殊出生率 0.96(2021年)

▶昼間人口 325,767人(2020年)

▶事業所数 11,917(2021年) <減少傾向>

▶医療機関等数 584(2022年度)

▶1住宅あたりの居室数・延べ面積 2.71室・54.28m²(2018年)

▶ごみ収集量 1世帯272.5kg(2021年度)

▶区道上街路灯数 12,482(2022年)

▶刑法犯発生数 1日5.1件(2021年)

▶交通事故件数 1日1.6件(2022年)

▶火災発生件数 1日0.17件(2021年)

▶中野駅周辺の再整備が進展しており、2030年頃の事業完了に向けて、具体的にまちの変化となって見えてきた。これに伴い、高所得者層が転入している。

▶中野駅周辺再整備完了後には、鉄道利用者が約16万人、バス利用者・歩行者が約9万人増加する推計となっている。

▶来街者、外国人来街者が増えている(新型コロナウイルス感染症拡大時前までほぼ回復)。

▶西武新宿線沿線連続立体交差事業(中井駅～野方駅)と新井薬師前及び沼袋駅周辺のまちづくりが進んでいる。

▶中野区寄付金税額控除額(ふるさと納税による流出額)は、21億円(2021年度)



出典:「第63回中野区統計書」、令和3年経済センサス(活動調査)

2 中野区産業の現状と課題②(「中野区産業振興ビジョン」(2012年10月策定)の再検証)

戦略	方向性		達成状況	今後の検討の視点
戦略Ⅰ 新たな企業の集積	方向性1	民間企業・大学の誘致・集積	○	再開発やシティプロモーションを通じた企業誘致を行う。
	方向性2	産学公連携の推進、 中野駅周辺タウンマネジメントの展開	▲(学公連携は○)	連携の態様は事業や取組による。 中野駅周辺エリアマネジメントを推進 (区が支援)する。
戦略Ⅱ 中小企業の振興	方向性1	ビジネス拡大の促進、経営力の向上	▲	資金繰りの改善と収益構造の改善(販路拡大)を支援する。伴走型支援を進める。
	方向性2	人材確保と雇用創出	▲	人材確保と定着を支援する。
	方向性3	自己変革する商店街の支援	▲	キャッシュレス化支援と個店支援を進める。
戦略Ⅲ 重点分野の振興	方向性1	ICT・コンテンツ関連産業の振興	▲(コンテンツは○)	新型コロナウイルス感染症の拡大・長期化やエネルギー・物価高騰の影響を特に受けている業種を支援する。
	方向性2	ライフサポート関連産業の振興	▲	医療・福祉関連産業は、高齢化と人口増により今後も堅調の見込みである。

2 中野区産業の現状と課題③(国・都の主な取組)

▼経済産業省(中小企業庁)

- ▶よろず支援拠点(全国に中小企業向けの経営相談所を配置し、経営上の相談に対応)の設置
- ▶「地域商業機能複合化推進事業(地域の持続的発展のための中小事業者等の機能活性化事業)
▷消費動向等分析・テナントミックス構築事業(ソフト事業) ▷商店街等新機能導入促進事業(ハード事業)

▼厚生労働省

- ▶ユースエール認定制度(若者の採用・育成に積極的で若者の雇用管理状況が優良な中小企業を厚生労働大臣が認定)の実施
- ▶ハローワーク
▷インターネットサービス機能の拡充

▼JEED(独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構)

- ▶オーダーメイド型の生産性向上支援訓練の実施
- ▶中小企業等DX人材育成支援窓口の開設

▼日本政策金融公庫

- ▶無担保・保証人不要で融資が受けられるマル経融資をはじめとする中小企業・小規模事業者向け融資等の実施

▼東京都

- ▶ワンストップ総合相談窓口の実施(東京都中小企業振興公社)
- ▶雇用創出・安定化支援事業の実施
- ▶業界連携再就職支援事業の開始
- ▶ミスマッチを防止するための採用・定着支援の開始など
- ▶商店街が実施するデジタル化推進事業への支援拡充(対象件数の拡大)
- ▶商店街振興組合(法人商店街)への支援強化(商店街チャレンジ戦略支援事業に「組織力強化支援事業」新設)
- ▶アドバイザー、専門家派遣、調査・計画策定支援 等(商店街ステップアップ応援事業)

▼中野区の取り組み

▶経営相談

- ▷産業振興センターにて商工相談、融資に関する相談を実施
- ▷中野中小企業診断士会に委託し、経営全般・創業の悩みに対して、中小企業診断士による出張相談を実施
- ▷産業振興センターに融資受付窓口を設置し、融資あっ旋や、金利の一部補助(利子補給)を実施

▶販路拡大

- ▷ビジネスフェア出展費用の一部補助を実施

▶創業支援

- ▷産業振興センターにて経営支援、創業等の講座・セミナーを実施
- ▷創業セミナーを西武信用金庫、杉並区と共同開催
- ▷ビジネスプランコンテスト(ビジコンなかの)を西武信用金庫と共同開催

▶雇用支援

- ▷ハローワークや東京しごと財団、杉並区等と連携し、就職相談・面接会を実施

▶勤労者福利厚生事業支援

- ▷勤労者サービスセンターへの運営補助

▼東京商工会議所 中野支部

- ▶経営指導員による経営相談や、各分野の専門家による窓口相談を実施。専門家派遣事業も扱う。
- ▶相談内容が発展的で長期にわたるものは、ビジネスサポートデスク(西新宿)につなぎ、継続的なサポートを実施

2 中野区産業の現状と課題③(中野区的主要取組、商業)

▼中野区

▶組織力強化支援

▷商店街連合会事業補助金の支給

▶集客の仕掛けづくり

▷イベント事業への支援(商店街チャレンジ戦略支援事業、中野にぎわいフェスタ運営費補助金)

▷区商連が実施する「個別・スタートアップ支援」事業への支援(商店街連合会事業補助金で実施)

▷商店街の環境整備事業への支援(商店街チャレンジ戦略支援事業、商店街街路灯電灯料助成、商店街街路灯撤去事業、商店街街路灯維持補修助成)

▶経営力の向上

▷商店街(商店)のデジタル化、キャッシュレス化支援

▶地域商業全体の活性化

▷プレミアム付商品券事業の実施

▷ポイント還元事業の実施

▼区商連・区振連

▶区内共通商品券(なかのハート商品券)の電子化検討

▶商店街実態調査による現状把握

▶個別・スタートアップ支援事業による個店支援

2 中野区産業の現状と課題④(中小企業の事業環境の現状)

産業の構成	<ul style="list-style-type: none"> ▶事業所数11,917 ▶廃業数が創業数を上回っている。 ▶卸売・小売業が最も多く(19.9%)、不動産・物品賃貸業(15.8%)、宿泊業、飲食サービス業(12.5%)が続く。 ▶不動産・物品賃貸業、宿泊業、飲食サービス業、医療・福祉(10.2%)の事業所の割合が都平均より高い。 ▶従業者数も上記とほぼ同様の傾向である。 ▶大手アニメ制作会社やコンテンツ制作会社が立地しており、アニメ・コンテンツ関連の仕事を手掛ける事業者が集積している。
デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ▶デジタル化に投資した業種で低いのは、理容業0%、小売業12%、飲食業13%、卸売業19%となっている。
景況感	<ul style="list-style-type: none"> ▶売上高は回復基調にあるものの、エネルギー・仕入れ価格の高騰、人材確保のための賃上げなどによるコスト増に加え、コスト増分を価格転嫁で吸収できず、収益悪化の予想する事業者も多い。 ▶2022年の売上は、2019年と比較して「好転」26%、「減少」46%。 2022年の収益を2019年と比較して「好転」20%、「減少」47%。 このうち、ともに「減少」が平均値をほぼ上回っているのは、飲食業、卸売業、貨物運輸業、小売業、サービス業、製造業となっている。 ▶現在直面している経営課題・事業への影響は、「商品・原材料・部品などの仕入価格の上昇」60%、「エネルギー価格(軽油・ガソリン・電気・ガス等)の上昇」45%、「人手不足」30%(※複数回答有)。 ▶「従業員数21～50名」では半数以上の事業所が「人手不足」と認識している。 ▶商品・原材料・部品などの仕入価格の上昇分の価格転嫁が充分にできていない事業者は59%。 ▶「人手不足」の理由は、「求める人材からの応募がない」72%、「人材が定着しない」28%(※複数回答有)。
課題認識・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ▶「2022年に活用した補助金・助成金はあるか」との問いに対して、「特になし」が59%(※複数回答有)。 ▶「事業所継続・競争力強化のため、どのような中野区の支援が必要か」との問いに対して、「制度融資の拡充などの資金繰り支援」が31%、「新規取引先・販路拡大への取組支援」が25%、「人材採用活動に対する取組支援」が17%(※複数回答有)。 ▶「中野区の融資窓口が委託になって以降、職員との交流がなく、取組などの情報が区内企業に伝わりにくくなっている」という意見有。

出典：令和3年経済センサス(活動調査)、2022年中野区区内事業所アンケート調査報告書(東商中野支部)

2 中野区産業の現状と課題④(中小企業の事業環境の課題)

<p>新型コロナウイルス感染症長期化の影響・物価高騰による影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶新型コロナウイルス感染症の長期化の影響は、業種や事業所において差が大きい。どのような支援が効果的か。 ▶一方、エネルギー・物価高騰に対する影響は、業種を問わず影響がある。どういった支援が効果的か。
<p>中小企業の経営安定化支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶中小企業(の多くは)、大企業と異なりキャッシュフローが弱い。 ▶行政の各制度に気軽に相談できる体制がない(取引先の金融機関からの紹介が主)。 ▶中小企業振興公社は、支援メニューが豊富でワンストップ。弁護士等を紹介してもらえ、専門的な相談が受けられる点が良いが、(中野から離れた)秋葉原であることがネックとなっている。 ▶各種補助金の申請手続きは煩雑。補助金申請の支援が必要 ▶東京都や中野区などの支援情報の発信を工夫することが必要(東京都や中野区、東商などによる支援メニューは豊富である一方、どこに行けば、何を見れば必要な情報にアクセスできるかがわかりづらい)。 ▶融資制度をはじめ、東京都や中野区、東商などによる支援制度の利用実績は明らかになっているが、それらが経営の安定化にどの程度寄与したかの後追い調査ができていない。 ▶創業時よりも、顧客の斡旋など、販路開拓・拡大の支援が必要。区内で事業継続するために不可欠。ネットワークづくりの支援が必要 ▶商売は得意だが、経営が苦手な事業者(経営者)への支援が必要 ▶人材確保の支援強化が必要(人材確保は、一からでなく、技術を有する中途採用がベターとの意見多数)
<p>意欲ある中小企業の成長・発展に向けた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ビジネスフェアへの参加促進 ▶新たな商品やサービスの開発に向けた支援を実施 ▶地域貢献事業や区との協働・協創の取組促進
<p>創業・スタートアップ支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶中野区が創業時の情報交換(ネットワークづくり)を支援 ▶女性起業家の促進するための工夫が必要(←子育て先進区を目指す中野区) ▶中野区による認定制度の検討(中野区のお墨付きがあると、創業期に顧客を掴みやすい)。

2 中野区産業の現状と課題⑤(商業・商店街の現状)

構成	<ul style="list-style-type: none"> ▶中野駅北口エリアの店舗数+10.3% ▶中野駅南口エリアの店舗数+0.9% ▶小売業26.0%、飲食業36.2%、サービス業17.0%、その他20.9% ▶空き店舗率は10.8%。各商店街内で11店舗以上の空き店舗がある割合は増加傾向。空き店舗になる前の業種は飲食店である割合が最も高い。 ▶中野区商店街連合会会員数(商店街数、店舗数とも)は減少傾向が続いている。 ▶区内の事業所数は減少しているものの、従業員数や年間商品販売額は増加している(都全体や23区と同様の傾向)。 ▶区内商店街の役員の平均年齢が60代以上なのが全体の68.5% ▶区内商店街で青年部のある商店街が全体の10% ▶区内商店街で専従職員のいる商店街が全体の12.5%(全て商店街振興組合) ▶区内商店街で核となる(集客力のある)店舗があると回答している商店街において、核となる店舗としているのが「スーパーマーケット」「コンビニエンスストア」「ドラッグストア」となっている商店街が比較的多い。
景況感等	<ul style="list-style-type: none"> ▶中野区商店街連合会会員の半数以上が「商店街は衰退傾向にある」と認識している。
デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ▶大型店、ナショナルチェーンのキャッシュレス決済化は進んでいるが、一般店では対応できていない商店も多い。これまでキャッシュレス化事業を行ってきた商店街の実績(商店街に加盟している店舗のみ)から推測して、キャッシュレス化事業を行っていない商店街のキャッシュレス化率は30%~60%程度であることが見込まれる。 ▶商店街として「キャッシュレス決済の導入に取り組んでいる」と回答したのが5商店街(回答40商店街中)、「今後取り組む予定」が6商店街 ▶同調査において、商店街としてデジタル化を推進していく際の課題について、最も多かった回答が「商店街の中で対応できる人材が不足している」(22商店街)であり、次に多かった回答が「財源の確保が困難」(12商店街)
課題認識・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ▶商店街の施設(街路灯、アーチ、アーケード、ブロック舗装等)の老朽化が進んでおり、適切な維持管理がなされていないケースがある(まちの安全・安心に支障をきたす恐れもある)。 ▶専従職員のいる商店街が少なく、商店街活動を担っているのは商店街の役員となっている商店の経営者が多く、仕事の合間に行わざるを得ない。また、役員の高齢化も進んでいる。

2 中野区産業の現状と課題⑤(商業・商店街の課題)

<p>商店街の活力維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶商店街・商店のデジタル化・キャッシュレス化を推進する(インバウンド対策としてもデジタル化・キャッシュレス化は必須)。 ▶所有する商店街施設(街路灯、アーチ、アーケード、ブロック舗装等)管理の適正化を図る。 ▶街路灯支援を見直す。 電灯料補助平等性を重視するなら助成単価の上限設定方式、差が生じることを良しと考えるのであれば、実績の一定割合方式(区商連の希望は10/10)。いずれを選択するべきか。 ▶事業承継等を支援する。 ▶空き店舗対策を講じる。 問題点として、①店舗の老朽化 ②所有者に貸す意思がない ③家賃の折り合いがつかない ④商店街に活気・魅力がない ⑤出店希望者が望む店舗環境(床面積等)と現存する空き店舗との不一致 ▶今後も成長が見込まれる商店街への支援を強化する＝商店街としての魅力を向上する(集客力のある商店街づくり) ▷専門家派遣や振興組合優遇補助金 ▷組織力強化(振興組合化等)支援 など
<p>魅力ある店舗の創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶個店支援を強化する。 <p>【課題】</p> <p>①過去の空き店舗対策事業の結果として、家賃補助等がなくなると撤退してしまう傾向がある。継続してもらうための条件付けが必要</p> <p>②「個店への支援は、個人の財産に対する公金の投入となる場合も考えられ、公平性の観点から無原則で行うことはできない。従って、商店街が行う個店支援事業であっても、単なる個店の改修や財産取得など、明らかに商店街の活性化とは内容を異にする事業について補助対象とすることはできない」(都判断)</p>
<p>商工関係団体の組織力と活動の低下への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶事務局人材を確保する。 事務局機能を担える人材、キャッシュレス化・デジタル化等の専門性を要する事業実施を担える人材等がない事が、商店街の活性化を妨げる要因となっている。 ▶行政の人材支援(アドバイザーなど)は一過性になりがちであり、また経常業務(事務局の人件費など)は原則として補助対象とならない。 ▶商店街の事務局機能の強化(会費を集められない、補助金の申請ができないなど)するために、商店街が行うことのできる収益事業(空き店舗、空きスペースの有料貸出等)の研究や支援を行うことが必要

2 中野区産業の現状と課題⑥(まちづくり)

エリア	現状	主な課題等
中野駅周辺まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶土地区画整理事業、市街地再開発事業等による街区整備約30ha ▶新たに整備される住宅施設、約4,000戸 ▶新たに創出される商業施設、約85,000㎡ ▶中野駅周辺の昼間人口、約4万人増加 ▶中野駅周辺の夜間人口、約1.5万人増加 ▶鉄道(JR中野駅)と区内広域バス交通を結節する交通広場を南北に2か所整備 ▶歩行者デッキ、地区施設広場など、文化・芸術活動を可能とする歩行者専用空間を創出 ▶中野駅周辺において新たに整備される公的空間を、地域が主体となって活用し運用するエリアマネジメント組織づくりを支援 	<ul style="list-style-type: none"> ▶都市計画事業等のまちの再整備は、衰退傾向にある商店街などを、根幹から改善できるチャンスであるが、その機会を活かせていない。 ▶各地区のまちづくりでは、「賑わいの創出」や「まちの活性化」を「まちの目標や将来像」に掲げるケースが多いが、その実現にもっとも重要な商業計画に取り組んだ事例が中野区にはない。 ▶各地区のまちづくりの取組において、具体的な商業計画にアプローチしていないため、商業者らは「まちづくり事業における生活再建」において、商業の継続を選択できないケースが多く見受けられる。また、このことが地権者との合意形成に大きな支障となり、まちづくりの進捗に大きな影響を与えるケースが多い(沼袋のまちづくりなど)。 ▶「まちの将来像を実現するための方策」に産業振興施策が連携していないため、まちづくり事業が「商業者の廃業を決意する契機」になるケースも見受けられる(大和町、沼袋のまちづくり)。
西武新宿線沿線まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶区画街路第4号及び第3号の街路用地、駅広用地等の用地買収の推進(区街4号:街並み誘導型地区計画による歩行者に優しい街路整備、商店の連続性確保) ▶連続立体交差事業に伴う駅周辺の賑わい機能の形成の検討(沼袋・新井薬師駅)(区街3号:新井薬師駅前の再開発計画への動き) ▶野方以西の事業化を踏まえた交通ネットワーク形成と各駅周辺の賑わい、活力形成(野方・都立家政・鷲ノ宮駅周辺の各まちづくり整備方針) 	<ul style="list-style-type: none"> ▶「まちの将来像を実現するための方策」に産業振興施策が連携していないため、「賑わいの創出」や「まちの活性化」などの「まちの目標」を実現することが困難な現状にある。 ▶中野区都市計画マスタープランが示す「新たな活力が生まれる持続可能な都市づくり」への視点が弱い。 ▶中野の特性を生かした魅力の強化への誘導策が必要 ▶中野駅周辺の再開発事業や西武新宿線連立事業に伴って進めるまちづくりを契機とした、安全に歩行ができ、地域特性や資源を生かした魅力ある買い物空間の確保が課題
東中野駅周辺まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶駅東口周辺のバリアフリー化に合わせた交流拠点形成のまちづくりの動きがある。 ▶駅周辺の町会・商店会を巻き込んだまちの課題抽出を行った(アンケート・意見交換会)。 ▶JR東日本とバリアフリー化に関する情報交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶中野区都市計画マスタープランが示す各駅ごとの交流拠点、生活拠点の育成・整備に向けた戦略(区内の主な駅ごとの魅力や課題を踏まえ多様な都市機能を誘導する活性化戦略)が必要 ▶中野駅周辺、西武新宿線各沿線など、都市基盤やまちづくりの進捗に伴うソフト・ハードの商業、産業、商店街の育成・活性化が弱い。

2 中野区産業の現状と課題⑦(都市観光)

現状	主な課題等
<p>▶「中野区都市観光ビジョン」(2012年6月策定)で示した目標の多くを達成できず、また都市観光施策を推進する体制を整備することができなかった。</p> <p>▶都市観光のターゲットとして、インバウンドや遠方からの誘客への期待が大きすぎた。地域にもっと目を向けるべきである。また、インバウンド・アウトバウンド、ゲスト・ホストのような二項対立的な考えではなく、中野の多様性を活かして在住者、在勤者、在学者、来街者の全てが都市・中野のユーザーであると捉えることが必要である。</p> <p>▶「中野区認定観光資源(2014年認定)」は、存在自体がほとんど知られていない。認定資源は、総花的である一方、知名度の高いものが漏れており、文化・芸術分野は施設だけである。</p> <p>▶中野はサブカルチャーや中野ブロードウェイのイメージが強いが、それらについて、具体的に何があるのかは、十分に知られていない。</p> <p>▶中野区は、中野ブロードウェイや中野サンプラザを除き、訴求性の高い観光資源がない「非観光地」であることを認識した上で、中野の魅力や強みを探る必要がある。</p>	<p>▶都市観光のターゲットを明確にするとともに、中野の強みや資源を捉え、創出する。</p> <p>▶メインターゲットは、区民、在勤者、在学者、周辺地域の住民、新宿や渋谷を訪れたついでに寄る人「気楽なりピーターづくり」</p> <p>▶インバウンドは、まちのユーザーの一人として捉える。</p> <p>▶強み・資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人や違いを受け入れる風土(多様性) ・人のつながりがある ・ほどよさがある。 ・変化がある(若年層の流動性が高い、中野駅周辺の再整備が進展) ・交通利便性が高い(新宿や渋谷に近い) ・多様で豊かな人材 ・中野ブロードウェイ(サブカルチャー) ・リーズナブルで美味しい飲食店が集積 ・地域密着・参加型のイベントが多い ・文化・芸術活動が盛ん ・中野通りをはじめとした桜 ・掘り起こされていない資源がある(と思われる)
<p>▶中野の資源について、情報発信力が弱い。そのため、まちのブランディングができていない。</p>	<p>▶情報発信を強化する。</p> <p>中野区をはじめ、中野区観光協会をはじめとした関係団体や事業者、メディア等により、発信する情報とそのターゲットに応じて、発信元と方法を工夫する。</p>
<p>▶都市観光を進める推進体制や連携力が弱い。</p> <p>▶都市観光活動の中心として長く携わるコア(人、組織)が乏しい。</p> <p>▶区内団体の横のつながりは比較的強い一方、他自治体に比べると、都市観光に取り組むネットワークは小さく、また、連携力や継続性が低い。</p>	<p>▶中野区と関係団体・事業者との連携力を強化する</p> <p>▶献意識の高い中野区内事業者は、中野の資源。中野区が様々に支援することで、事業活動がしやすいまちとしてのブランディングを促進する。「いい企業があるまち中野」</p> <p>▶中野区は、都市観光を推進する人や団体(組織)を育成する。</p> <p>▶来街者を巻き込んだ取組の企画・実施と情報発信に努める。</p> <p>▶事業やイベントは、小さなつながりをつなげることで、そして、スモールサクセスを広げていく。</p>

3 中野区産業振興方針の目的(目標)、基本方針

背景、現状と課題を踏まえ、中野区産業振興方針の目的(目標)と基本方針は、次のとおりとする。

▼目的(目標)

中野の地域経済が健全に発展し、区民生活が向上している。

▶現在の中野区産業を振興する。【振興】

▶中野区で新たに興し、未来に継続・発展できる産業を育成する。【新興】

▼基本方針

1 中野区の立地や環境を生かした中小企業振興策を実施する

2 キャッシュレス化と個店支援を中心とした商店街支援を進める

3 地域の中小企業や商店街・商店の振興に寄与するまちづくりを進める

4 「文化・芸術」「コンテンツ」「グルメ」を重視した都市観光施策を進める

4 施策案、主な取組案①(基本方針1)

基本方針1	施策案	主な取組案		
<p>中野区の立地や環境を生かした中小企業振興策を実施する</p>	<p>★中小企業の経営安定化</p>	<p>▶経営相談の充実【コンシェルジュ】</p>	<p>▶販路拡大(収益構造の改善)に向けた伴走型経営支援</p>	<p>▶融資制度・手続きの見直し・再構築</p>
		<p>▶各種団体の連携・情報発信力の強化支援</p>	<p>▶雇用・育成支援相談窓口(他機関への斡旋等)の開設</p>	<p>▶新商工会館への産業振興機能集約</p>
	<p>★中小企業の取組・活動応援</p>	<p>▶IT化の取組支援</p> <p>▶DXの取組支援</p>	<p>▶SDGsの取組支援</p>	<p>▶勤労者福利厚生支援の見直し</p>
	<p>★創業・イノベーション促進</p>	<p>▶創業・スタートアップ支援(資金繰りほか)</p> <p>創業・スタートアップ支援を受ける要件として一定期間は中野区内で事業を継続するなど</p>		

※通じて、中野区が実施する取組と各団体が実施している取組の上乗せ支援の双方から検討する。

4 施策案、主な取組案②(基本方針2)

基本方針2	施策案	主な取組案		
キャッシュレス化と個店支援を中心とした商店街支援を進める	★商店街キャッシュレス化推進	▶QRコード決済導入支援	▶都キャッシュレス支援(補助)事業への上乘せ補助	▶キャッシュレスポイント還元事業の実施
		▶デジタル地域通貨の導入	▶デジタル電子商品券の導入支援	▶中野区主催のチャレンジショップ事業の実施
		▶商店街街路灯電灯料金助成の見直し	▶街路灯撤去事業の実施	▶事業承継・店じまいに関するアドバイザー派遣
	★魅力ある個店の創出	▶個店・スタートアップセミナー&個別の伴走型経営支援	▶モデル商店街(沼袋・新井薬師前)の個店アピール	▶モデル商店街(沼袋・新井薬師前)への出店斡旋
★他自治体との連携による商業振興	▶なかの里・まち連携事業の見直し	▶なかの里・まち連携先以外の自治体等との連携		

4 施策案、主な取組案③(基本方針3)

基本方針3	施策案	主な取組案	
<p>地域の中小企業や商店街・商店の振興に寄与するまちづくりを進める</p>	<p>★中野駅周辺まちづくり、中野駅周辺エリアマネジメントの推進</p>	<p>▶中野駅西側南北通路・橋上駅舎、各地区の開発と連携した駅前広場や歩行者デッキ等の整備</p> <p>▶中野サンプラザ閉館～解体のサンプラザ前広場でのイベントの企画・実施、誘導</p> <p>▶アニメコンテンツやデジタル地域通貨と連携した中野駅周辺商業施設のウォークブル企画</p>	<p>▶中野駅周辺地区駐車場地域ルールの方策、荷さばき課題の解決</p> <p>▶中野駅新北口周辺の工事のイメージアップ経費活用事業の実施</p> <p>▶中野区・大学・商店街連携によるイベント実施時の属性・行動分析に基づく、中野駅周辺回遊企画の実施</p> <p>▶中野駅周辺エリアマネジメント協議会への参加、運営支援</p> <p>▶エリアマネジメント団体・商店街連携による中野駅周辺の「まちの資源活用事業」の試行</p> <p>▶特定公共施設等におけるエリアマネジメント連携民間管理制度の導入</p>
	<p>★西武新宿線沿線各駅周辺まちづくりの推進</p>	<p>▶新井薬師前・交通広場(区画街路3号線)整備と市街地再開発事業の実施支援</p> <p>▶若手起業家の支援(モデル商店街への出店斡旋)</p>	<p>▶沼袋・区画街路4号線の着実な用地取得と沿道の賑わい創出検討(まちづくり法人設立の検討)</p> <p>▶歩いて楽しい商店街形成のバリアフリー・ユニバーサルデザインの検討</p> <p>▶地域との意見交換会等に基づく鉄道上部空間デザイン提案・調整</p>
	<p>★東中野駅周辺まちづくりの推進</p>	<p>▶東中野駅東口周辺のバリアフリー化</p>	<p>▶交流拠点にふさわしい南北、東西の回遊ルート形成</p> <p>▶東中野の魅力を高める商業空間形成検討・調整</p>

4 施策案、主な取組案④(基本方針4)

基本方針	施策案	主な取組案	
<p>「文化・芸術」 「コンテンツ」 「食・グルメ」を重視した都市観光施策の推進</p>	<p>★都市観光のターゲットを明確にするとともに、中野強みや資源を捉え、創出</p>	<p>▶地域密着・参加型イベントの属性・行動調査・分析とこれらを踏まえた企画の実施</p>	<p>▶中野区国際交流協会などと連携した、在住・在勤外国人による(中野の資源などの)情報発信</p> <p>▶中野の魅力や認知度調査の実施⇒中野区認定観光資源の見直し(人や活動も資源)</p>
	<p>★情報発信の強化</p>	<p>▶中野区在住・在勤インフルエンサーによる地域資源(イベント・活動、場所・人)の情報発信促進</p>	<p>▶文化・芸術活動支援の充実</p> <p>▶中野区・中野区観光協会などによる情報発信の強化(区内の事業者のCSRや、学校や大学、団体の活動・活躍の積極的な情報発信を含む)</p> <p>▶(仮称)中野区文化芸術大使を設置</p>
	<p>★中野区と関係団体・事業者との連携力強化</p>	<p>▶中野区在住・在勤インフルエンサーによる地域資源(イベント・活動、場所・人)の情報発信促進</p>	<p>▶中野区・中野区観光協会などによる情報発信の強化(区内の事業者のCSRや、学校や大学、団体の活動・活躍の積極的な情報発信を含む)</p> <p>▶サブカルチャーと親和性が高いメタバースやeスポーツの誘導</p> <p>▶中野のまちがアニメやゲーム、ドラマ・映画の舞台となることや、街中の番組収録を積極的に誘致(フィルムコミッションの運用方法見直し)</p> <p>▶高円寺エリアとのコラボ企画の実施・誘導</p>
		<p>▶ふるさと納税返礼品・土産づくり(コト消費・グルメ、コンテンツ活用を中心に)</p> <p>▶中野区と区内事業者との協働の取組「ナカノミライブプロジェクト」の更なる充実</p>	<p>▶サブカルチャーと親和性が高いメタバースやeスポーツの誘導</p> <p>▶多様な文化が共生するゲストハウスや、宿泊可能な仕掛け屋敷の誘導</p> <p>▶交通事業者とタイアップした区内めぐり企画・実施、誘導</p>